

ばらしい技術と相まって、美しいピアノの音色に優雅な時を過ごせた。料理についても、質は高く量も十分であったし、「寿司コーナー」なるものも開設され、玄界灘の海の幸を堪能できた。参加された方々にも、きっと満足いただけたのではないかと思う。

最後は、次回開催地早稲田大学の森戸晋実行委員長からの開催のご案内と、前田博副実行委員長の閉会の乾杯(?)でお開きとなった。

8. 見学会

12日に行われた見学会には24名の参加があった。当日、朝は晴れていたものの、記録的強さといわれる台風の接近を心配しつつ集合場所へと向かった。

さて、バスは福岡の天神を出発し、順調に北九州方面へと向かい、予定より早く、第1の目的地安川電機へ到着した。ここでは、モートマンセンタにおいて、工業用ロボット生産の様子を見学し、またセンタ2階のロボットプラザにて各種ロボットの展示・デモを見ることができた。

次に向かったのは「西日本工業倶楽部」で、ここに

は、日本を代表するアールヌーボーの館「旧松本家住宅」がある。重要文化財にも指定されており、その美しい外観と格調高い調度品の数々、そして趣のある日本庭園は一見の価値あり、と思われる。

その後、車中で昼食をとりつつ、一路、日産自動車九州工場へと向かった。日産九州工場は、周防灘に面する京都(みやこ)郡苅田町にあり、72万坪(苅田町の1/20に相当)の敷地に4700名の従業員をかかえる日産最大の生産能力を持つ工場という。一行は第2工場を見学させていただいたが、初めて見る自動車生産の現場は、まさに壮観であった。

以上で見学は終わったわけだが、行程中は西鉄の大島氏の素人とは思えぬ(?)ガイドぶりにも楽しませていただいた。その知識と雄弁さはもとより、航空機で帰られる方のため、天気予報や航空会社への確認を行い、随時参加者に情報を提供されていたのは流石であったと思う。また、今回の工場見学は、途中雲行きの変じしさや、降車直前の土砂降りなどはあったものの、解散時までなんとか傘をささずに済んだのは幸いであった。

第12回企業事例交流会ルポ



平山 克己 (北九州市立大学)

2003年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会の初日9月10日午後、第12回企業事例交流会が福岡大学で開催された。数十名の聴講者で会場はほぼ満席の盛会であった。

企業事例交流会は研究発表会と同時に開催されているが、研究発表会のセッションとは異なる主旨のもとに行われ、二つのセッションで計4件の発表があった。開会にあたり、相澤りえ子氏(構造計画研究所)が開催の主旨について以下の説明をされた。

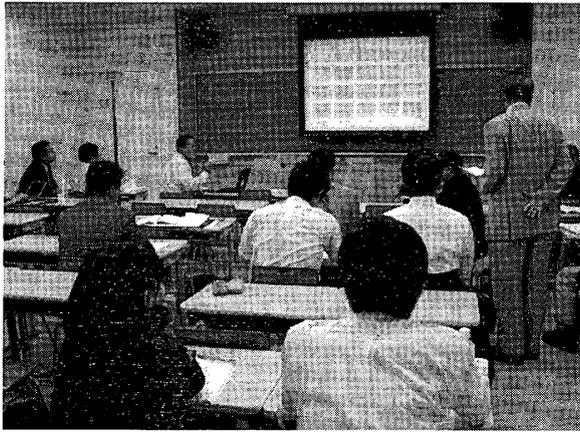
- ① 企業の中でORが実際に使われていることを広く世間に知ってもらう。
- ② 企業の現場でORの普及にご苦労されているORワーカを激励する。
- ③ 研究者には企業でのOR適用事例を知ることで、新たなモデル・理論の構築に役立てていただくこと、を目的としている。

まず、企業事例(1)のセッションでは塩田光重氏(日

鐵運輸)の座長のもとで、大西浩志氏(ビデオリサーチ)による「テレビ番組CMの割付に対する数理的アプローチ」の発表でスタートした。この発表では広告(CM)業界の裏話も交え、実際のCMの動画を見せるなど工夫がなされ、大変興味深く楽しいものであ



発表風景



質疑応答の風景

ったが、発表の内容は現実の企業が抱えている問題 (CM 割付) を 0-1 整数計画問題として定式化し、その数理的アプローチを広く世間に知ってもらうという本セッションの主旨そのものというものであった。茨木俊秀コメンテータ (京都大) からは、面白い問題であり、非常に難しい (NP-hard) 問題であるが、数理的アプローチを使えば上手く解ける問題である。この種のパッケージはアルゴリズムも重要であるが、ヒューマンインターフェイスの部分がパッケージの品質を左右するので、今後その部分の改良に力を注ぎ、良いパッケージに仕上げしてほしいとのコメントがあった。

次に後川隆文氏 (新日鐵八幡) の「自動車・鉄鋼間における SCM の適用」は、自動車会社の新車増産にともなうコイル置場不足を回避するために、サプライチェーンマネジメント (SCM) を適用した事例で、自動車会社側に発注予測機能、鉄鋼会社側にコイルとトラックの自動引当機能を導入し、紙による業務を廃止することによって双方にメリットがある SCM を構築したという発表であった。徳山博于コメンテータ (静岡大) からどれくらいのコスト削減があったかとの質問があり、20 数パーセントのコスト削減との回答があった。この回答を受け、徳山先生から SCM は企業同士の Win-Win 関係を保持することが重要であり、在庫理論からみても妥当なコスト削減率である。SCM の良い事例であるとのコメントがあった。

企業事例(2)のセッションでは岡野裕之氏 (IBM)

の座長のもとで、穴井誠二氏 (ゼンリン) から「3次元データベースによる地球環境にやさしい交通システム」の発表があった。この発表でも業界の裏話や 3D 地図のデモンストレーション等 (カーナビ、携帯電話でのマンナビゲーション等) 興味深い発表だった。腰塚武志コメンテータ (筑波大) から、ゼンリンの地図は学生の頃から青焼きの地図を使っており非常に親しみがある。3D 地図は都市景観にも使える等のコメントがあった。また、会場からは地図がリアルになればなるほどプライバシーの問題も出てくるのではないかととの質問もあり、海外ではテロの問題など難しいところがあるとの回答があった。

2 件目の発表は軽部和幸氏 (IBM) の「データ・マイニングを取り入れたシステム・インテグレーションの動向」で、RFM (Recency; 最新購買日, Frequency; 累計購買回数, Monetary; 累計購買金額) 分析にデータ・マイニングが使われている事例や、CRM における事例・動向に関するものであった。時永祥三コメンテータ (九州大) からは、10 年ほど前からエキスパートシステムなど大掛かりなツールがあったが、使われていない現状がある。大掛かりなツールでなくとも、発見したことを上手く使うことができればいいツールになると思う。気が付かないことをルール化すると面白いことがわかってくるとのコメントがあった。

残念ながら、1 件の発表は質疑応答を含めて 30 分という限られた時間であったので、その他質問がある方は懇親会にてお願いしますという進め方になってしまったが、企業で実際に使われている OR の話を聞く機会は非常に貴重なものであると思った。

また、ゼンリンや新日製鐵八幡という九州に足を置きながら、日本の中でも優良な企業の発表が聞けたことは九州で開催された意味も大きいと感じた。しかし、有意義な企業事例交流会が開催されたのは、実行委員会のご尽力のおかげであることを忘れてはいけないとも感じた。企業事例交流会が今後ますます発展することを願って、ルポを締めくくりたい。